

令和5年度 埼玉県公共事業景観形成指針専門家アドバイス【施工段階】

県東部地域特別支援学校（仮称）建設工事設計業務

① 基本設計段階アドバイスへの対応

- (1) 壁面の明度を落として圧迫感を軽減させる
 - ➔ 壁面の色は、明度が低めのベージュ系の色(10YR6.5/0.5)とし、田畑や樹木など緑が多い周囲の環境に調和する色彩に配慮した。
- (2) 建物のデザインを工夫する
 - ➔ 壁と柱の色を分け、濃淡をつけた。柱には茶系のアクセント色(10YR3/1)を配し、アルミサッシをブラックにすることで引き締まった建物となるようにした。また、外部階段に木調のアルミルーバーを設け、見え方に変化を持たせた。
- (3) 舗装が単調にならないようにする
 - ➔ 舗装の一部にインターロッキング、植樹柵を設置し、舗装が単調にならないよう工夫した。また、バリアフリーの観点に配慮し、段差や大きな傾斜が生じないようにした。
- (4) 敷地を囲うフェンスを工夫する
 - ➔ フェンスの色は樹皮のようなダークブラウンとした。植栽は維持管理のしやすさも考慮しながらツツジ、カナメモチ、ヤマブキを主に植栽した。
- (5) シンボルツリーを何らかのかたちで継承していく
 - ➔ 可能な限り保存を目指し、3本中1本のケヤキを保存した。また、伐採したものをキーホルダーにし、関係者や生徒に配布した。

- (3) 植栽について
 - ・ 植栽スペースの土壌にガラや礫が多く混ざっている。植栽の生育を良くするには、土壌の入れ替えが望ましい。
 - ・ 保存したケヤキの植栽スペースについて、歩行者通路の線形の工夫でもっと広くすることができたのではないかと。
 - ・ 駐車場横の植栽スペースで、駐車車両の排気ガスが当たるところがある。枯れる原因となるため「前向き駐車」といったルールを定めると良い。
 - ・ 正門付近の空きスペースに、エントランスの明示として、シンボルツリーを配置することも考えられる。
- (4) 外構について
 - ・ 敷地境界部について、敷地東側のようにフェンスの外側に植栽することで、フェンスが目立たなくなり、敷地外との調和が図られる。
 - ・ 敷地外の水路のフェンスについても、水路管理者と協議し、修繕するなど連携して景観形成していくことが好ましい。



② 完成した事業の評価 及び 今後に向けたアドバイス

- (1) 基本設計段階アドバイスへの対応
 - ・ 各アドバイスに対し、積極的に取り組んでいることは評価できる。
- (2) 建築物について
 - ・ 屋上の室外機など、基本設計段階では確認できなかった設備が外観の印象を乱している。設備も含めてデザインを検討するとなお良い。
 - ・ バスデッキの軒を学校エントランスまで延長し、統一感が出ている一方、その存在感が大きいためエントランス付近が重い印象を受ける。これを和らげるには屋根に採光性を持たせることが有効であり、今後、このようなケースでは検討していただきたい。
 - ・ 木造で建設できない場合でも、建築物の一部に取り入れることで木の雰囲気を感じられるので、デザインとして検討すると良い。

③ 参考意見

- (1) 施設利用者との協議
 - ・ 施設利用者との協議の場を設け、維持管理も含めた植栽の種類や、配置を決定していくことが望ましい。特に学校施設の場合、教育の一環として維持管理を行うことも考えられる。
- (2) 入札方式
 - ・ 入札をプロポーザル方式とすることで、施工者の創意工夫を引き出すことができる。より良い公共事業を実施するために、プロポーザル方式を活用することが望ましい。
- (3) 専門家アドバイスの進め方
 - ・ 基本設計段階アドバイス後、計画がアドバイスに沿った内容になっているか専門部会へ相談、確認を行うと良い。